番組

解説

狂言　墨塗

シテ／大名　高澤祐介

アド／太郎冠者　三宅　右矩

小アド／女　三宅　近成

後見　前田　晃一

川口　晃平

高橋　栄子

坂　真太郎

小田切康陽

松山　隆之

内藤　幸雄

仕舞

松風　松山　隆雄

融　会田　昇

地謡

内藤　幸雄　坂　真太郎

松山　隆之　松山　隆雄

小田切康陽　会田　昇

高橋　栄子

川口　晃平

――休憩二十分――

能　田村

前シテ／童子

後シテ／坂上田村丸ノ霊　土田英貴

ワキ／旅僧　村瀬　慧

大鼓　國川　純

小鼓　幸　信吾

笛　栗林　祐輔

アイ／清水寺門前ノ者　高澤祐介

後見　松山　隆之　小田切康陽

地謡　内藤　幸雄　坂　真太郎　高橋　栄子　松山　隆雄　川口　晃平　会田　昇

附祝言

（終了予定　午後四時二十分頃）

狂言　墨塗

―あらすじ―

長らく在京していた大名（シテ）が訴訟を終えて帰国することになったので、太郎冠者（アド）を引き連れて馴染みの女（小アド）の元へ暇乞いに行く。

別れを聞いた女は涙を流すが、実は鬢水入れの水を目に塗った嘘泣きであった。太郎冠者は女の嘘泣きを言いつけるも、大名は信じない。そこで太郎冠者は機転を利かせて…

能　田村

―あらすじ―

東国の旅僧（ワキ）が京都に赴き清水寺を詣でると、桜の木陰を清める花守の童子（前シテ）に出会う。

童子は「昔ある僧が観音の化現と出会いお告げを受け、それに従い坂上田村丸を頼りにこの寺を建立した」と縁起を物語り、暮れなんとする辺りの美景を褒め称える。

童子の気高いさまに感じ入り僧が名を尋ねると、名乗るともなく田村堂の中へと姿を消してしまう。【中入】

門前ノ者（アイ）の勧めで夜すがら読経をしていると、大将軍・坂上田村丸ノ霊（後シテ）が現れ、往時を勇壮に物語る。

かつて鈴鹿山の鬼神討伐の勅命を拝し戦を交えた際、山の如く多勢の鬼神に対して、味方の軍の頭上に千手観音が飛来され、千の矢を放ち、たちどころに討ち滅ぼし給うた。

これもひとえに信仰する観音のご加護・仏力ゆえと敬い拝み、田村丸ノ霊は姿を消すのであった。

土田英貴

―つちだ ひでたか―

シテ方観世流。梅若会所属。公益社団法人能楽協会会員。父・晏士（故人）、五十六世梅若六郎（現・四世 実）に師事。

一九七〇年生まれ。

一九七四年、「鞍馬天狗」花見にて初舞台。

二〇〇九年、「金札」にて初シテ。

二〇一四年、「千歳」披く。

東京・仙台・三陸緑清会主宰。

高澤祐介

―たかさわ ゆうすけ―

狂言方和泉流。

公益社団法人能楽協会会員。

重要無形文化財総合認定保持者。

三宅右近に師事。

一九七二年生まれ。

一九八七年、「痺り」にて初舞台。

現在までに「三番叟」、「釣狐」、「金岡」、「花子」を披く。

松山隆雄

―まつやま たかお―

シテ方観世流。梅若会所属。

公益社団法人能楽協会会員。

重要無形文化財総合認定保持者。

五十五世梅若六郎（故人）、五十六世梅若六郎（現・四世 実）に師事。

一九五一年生まれ。

一九八四年、仕舞「猩々」にて初舞台。

現在までに「千歳」、「猩々乱」、「石橋」、「道成寺」、「卒都婆小町」などを披く。

東京・山形緑隆会主宰。

会田　昇

―あいだ のぼる―

シテ方観世流。梅若会所属。

公益社団法人能楽協会会員。

重要無形文化財総合認定保持者。

五十五世梅若六郎、五十六世梅若六郎（現・四世 実）に師事。

一九四九年生まれ。

一九七〇年、「住吉詣」ツレにて初舞台。

現在までに「千歳」、「猩々乱」、「石橋」、「道成寺」などを披く。

緑弘会主宰。

【公演日】2018年7月7日（土）　14時開演（開場13時）

主催／仙台市能楽振興協会・仙台市・公益財団法人 仙台市市民文化事業団

【会　場】日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）シアターホール　仙台市青葉区旭ケ丘3丁目27-5　［地下鉄南北線「旭ケ丘」駅下車徒歩3分］